

令和4年度
訪米加 使節団派遣
結果報告書

観光部 人道の港発信室

目 次

1	訪米加使節団派遣概要	P. 1
2	訪米加使節団派遣行程表	P. 3
3	報告内容	P. 9
4	SNS発信状況	P. 19
5	現地報道状況	P. 23

訪米加使節団派遣概要

- 1 派遣期間 令和4年10月11日（火）～17日（月） 5泊7日
(国内前泊含む)
- 2 訪問地 アメリカ合衆国：ニューヨーク州ニューヨーク市
カナダ：オンタリオ州オタワ市、ケベック州モントリオール市
- 3 報告内容
(1) 10月12日（水）ニューヨーク市 別紙1のとおり
(2) 10月13日（木）ニューヨーク市 別紙2のとおり
(3) 10月14日（金）モントリオール市・オタワ市 別紙3のとおり
(4) 10月15日（土）オタワ市・モントリオール市 別紙4のとおり
※市長及び議長、各随員職員は15日（土）にパリへ移動
※16日（日）及び17日（月）は、人道の港発信室職員及び通訳の帰国に係る移動日
- 4 団構成 渕上 隆信 敦賀市長
 福谷 正人 敦賀市議会議長
 山本 寛治 議会事務局長
 藤村 弘明 秘書広報課長
 西川 明德 人道の港発信室長
 松田 和之 人道の港発信室長補佐
- 5 同行者 山田 夏子 通訳（地域おこし協力隊員）

令和4年度 訪米加使節団派遣 行程表

10月12日(水)					
時刻	現地	日本	スケジュール	所在地	備考
朝食	6:00				
	7:00				
午前	7:00		7:20 空港：東京（HND）着	第3ターミナル	
	8:00		機中13時間 ANA NH110便		
	9:00				
	10:00		10:20 東京（HND）発		
	10:15	23:15	NY（JFK）着	第7ターミナル	
	11:00		（時差△13時間） 入国手続き等		
昼食	11:30	0:30	NY（JFK）出発	移動：借上車両約40分	
	12:00	12:10	1:10 在NY日本国総領事館訪問	299 Park Ave, New York, NY	
午後	12:45	1:45	移動：徒歩及び借上車両約5分		
	13:00	13:00	2:00 A J C本部訪問	165 East 56th St, New York	
	14:00		ランチ兼面談 アーロン・ジェイコブ氏、ハナ・ルドルフ氏他	165 East 56th St, New York	
	14:30	3:30	移動：借上車両約10分		
	15:00	15:00	4:10 ホテルチェックイン（ニューヨーク・ヒルトン・ミッドタウン）	1335 Avenue of the Americas, New York, NY	
	15:30	4:30	移動：借上車両約10分		
夕食	16:00	16:00	5:00 レセプション準備（大使公邸）	4East 67th Street New York, NY	
	17:00	17:00	6:00 スコット・ギルマン氏面談 フィリップ・ローゼンフェルド氏同席 森 在NY日本国総領事・大使 面会・挨拶	4East 67th Street New York, NY	
	18:00	18:00	7:00 森 在NY日本国総領事・大使主催 レセプション ※市長：挨拶・プレゼン発表 ※議長：乾杯発声	4East 67th Street New York, NY	65名参加
夜間	19:00				
	20:00				
	21:00	21:00	10:00 NY散策：徒歩約20分		
宿泊	21:30	21:30	10:30 ホテル着（ニューヨーク・ヒルトン・ミッドタウン）		
	22:00				
			NY泊（ニューヨーク・ヒルトン・ミッドタウン）	1335 Avenue of the Americas, New York, NY	

2泊目

令和4年度 訪米加使節団派遣 行程表

		10月13日 (木)			
時刻	現地	日本	スケジュール	所在地	備考
朝食	6:00				
	7:00				
午前	8:00				
	9:00				
	9:30	22:30	ホテル出発	1335 Avenue of the Americas, New York, NY	
	10:00		移動：借上車両約40分	ブルックリン地区へ	
昼食	10:30	23:30	ユダヤ関連施設視察 カルマン・イエーガーNY市議面談 ラビ・ジョエル・ローゼンフェルド氏面談 NY総領事館 了泉庵政務部長、桜庭領事同行	1517 48Street Brooklyn, NY	
	12:00		昼食会 カルマン・イエーガーNY市議	802 Kings Hwy, Brooklyn, NY	
	13:00		移動：借上車両約40分		
午後	13:30	2:30			
	14:00				
	14:50	3:50	カレン・レオン氏面談 ローラ・レオン氏同席	153-12 Sanford Avenue Flushing NY	
	15:00				
夕食	15:45	4:45	移動：借上車両約70分		
	16:00		ウェストチェスター郡庁政府訪問【中止】		※当初計画のあったウェストチェスター郡庁政府訪問 については、先方の都合により急遽取りやめ
	17:00	6:00	ホテル到着（ニューヨーク・ヒルトン・ミッドタウン）	1335 Avenue of the Americas, New York, NY	
夜間	18:00				
	19:00				
	20:00				
	21:00				
宿泊	22:00				
	23:00				
			NY泊（ニューヨーク・ヒルトン・ミッドタウン）	1335 Avenue of the Americas, New York, NY	

3泊目

令和4年度 訪米加使節団派遣 行程表

		10月14日(金)				
時刻	現地	日本	スケジュール	所在地	備考	
朝食	6:00					
		6:15	18:15	ホテル発		
午前	7:00	6:45	18:45	空港: NY (LGA) 着		航空機2時間遅延のため空港にて待機
	8:00					
	9:00					
	10:00					
	11:00	10:30	23:00	NY (LGA) 発		当初の予定では8:35発
昼食	12:00					
		12:00	1:00	モントリオール (YUL) 着 (時差△13時間)		
午後	13:00			モントリオール (YUL) 出発		移動: 借上車両約20分
		13:20	2:20	ホロコースト博物館視察 ジャック・サーダ館長、オードリー・リコップ氏案内 在モントリオール総 垂井首席領事、グランモン氏同行	5151 Chem. de la Côte-Sainte-Catherine, Montreal, Quebec H3W 1M6	
	14:00					
	15:00	14:50	3:50	オタワへ移動 (借上げ車両約150分)		
	16:00					
	17:00	16:50	5:50	ホテルチェックイン (ノホテル オタワ)	33 Nicholas St, Ottawa, ON K1N 9M7	
夕食	18:00	17:00	6:00	在カナダ日本国大使館訪問	255 Sussex Drive, Ottawa ON, K1N 9E6	
		17:30	6:30	山野内 在カナダ日本国大使面会・挨拶	725 Acacia Avenue Ottawa, ON K1M 0M8	
	18:00	7:00	ジュディス・クラウレイ氏面談 コリーナ・クラウレイ氏 (ご息女) 同席	725 Acacia Avenue Ottawa, ON K1M 0M8		
	19:00	18:30	7:30	当地紙インタビュー (市長, ジュディス親子, 大使)	725 Acacia Avenue Ottawa, ON K1M 0M8	
夜間	20:00	19:30	8:30	山野内 在カナダ日本国大使主催公邸会食 ※市長、議長、室長、室長補佐、通訳 (計5名) 同席	725 Acacia Avenue Ottawa, ON K1M 0M8	※Mina Cohn氏、体調不良により急遽欠席
		21:00				
	22:00					
22:30						
宿泊			オタワ泊 (ノホテル オタワ)	33 Nicholas St, Ottawa, ON K1N 9M7		

4泊目

令和4年度 訪米加使節団派遣 行程表

		10月15日 (土)				
時刻	現地	日本	スケジュール	所在地	備考	
朝食	6:00					
	7:00					
午前	8:00					
	9:00	9:00	22:00	ホテル発	(借上げ車両約15分)	
	9:15	22:15	国立ホロコースト記念碑視察	Ontario, Ottawa, Chaudière Crossing		
	10:00		アルトゥール・ウィルツィンスキー氏墓内、山野内大使同行			
	10:15	23:15	オタワ市内視察			
昼食	11:30	0:30	昼食 (METROPORITAN BRASSERIE RESTRANT) 山野内大使、古谷次席公使、山崎一等書記官同席	700 Sussex Dr. Ottawa, Ontario		
	12:30	1:30	モントリオールへ移動 (借上げ車両約150分)			
午後	15:00	15:05	4:05	テレサ・ロメル氏面談 面談者：市長、議長、室長、通訳 (借上げ車両約15分)	10, allée des Brises du Fleuve, Montreal(Quebec)H4G 3M7 #602	
	16:30	5:30	在モントリオール日本国総領事館訪問 齋藤総領事面談、垂井首席領事同席	1 Place Ville Marie, Suite 3333 Montreal, Quebec		
	18:00	18:00	7:00	空港：モントリオール (YUL) 着		
夜間	20:00		ホテルへ移動 (西川、松田、山田)			
	21:00	21:05	10:22	モントリオール (YUL) 発		
	22:00	機中6時間40分	エアカナダAC870便 (市長、議長、各随行計4名)			
	宿泊			機中泊/ホテル ロイヤル・ホテル・ロイヤル・モントリオールセンター 50 Boul Rene Levesque West, Montreal, Quebec H2Z 1A2	+1-514-874-9090	

5泊目

令和4年度 訪米加使節団派遣 行程表

		10月16日 (日)				
時刻	現地	日本	スケジュール	所在地	備考	
朝食	6:00					
	7:00					
午前	8:00					
	9:00					
	10:00	9:45	16:45	パリ (CDG) 空港着 (パリ時差△7時間)	北前船フォーラムinパリへ	(市長、議長、各随員 計4名)
	11:00	10:30	17:30	空港: モントリオール (YUL) 着		(西川、松田、山田 計3名)
	12:00					
昼食	13:00					
	14:00	13:40	20:40	モントリオール (YUL) 発 エアカナダ AC5便		(西川、松田、山田 計3名)
午後	15:00					
	16:00					
	17:00					
	18:00					
夕食	19:00					
夜間	20:00					
	21:00					
	22:00					
宿泊	6泊目 (機中泊)					

		10月17日 (月)				
時刻	現地	日本	スケジュール	所在地	備考	
15:00		15:45	成田 (NRT) 着		(西川、松田、山田 計3名)	

●AJC（米国ユダヤ人委員会）本部訪問

1 日 時 令和4年10月12日（水） 13:00～14:30

2 場 所 AJC本部

3 出席者 〈相手方〉

アーロン・ジェイコブ AJC 外交部部長

デyna・レビンソン・スタイナー

AJC アクセスグローバル担当部長

ハナ・ルドルフ AJC アジア太平洋研究所所長補佐

その他「カケハシ・プロジェクト」参加者 3名を含む計9名

〈同席者〉

桜庭 大輔 在ニューヨーク日本国総領事館 領事

4 内 容

- ・ユダヤの歴史を語りついでいく活動に改めて謝意表明を受けた。
- ・AJC としても若者を対象として活動を進めている中で、当市との関係を今後強化していくことを確認。
- ・外務省による招請事業「カケハシ・プロジェクト」に全米で18名参加するうちの3名が参加しており、12月に来日予定。
- ・「カケハシ・プロジェクト」参加者に敦賀に来ていただくことができるよう、日本滞在プログラムに人道の港 敦賀ムゼウム訪問が組み込まれるよう、お互いに協力していくことを合意した。
- ・「カケハシ・プロジェクト」の参加者にその方の祖父が敦賀に上陸したという敦賀と関わりのある人がいたとの情報を得ることができた。
- ・敦賀の基幹産業や若年層のUIJ ターン促進など幅広い意見交換を実施。

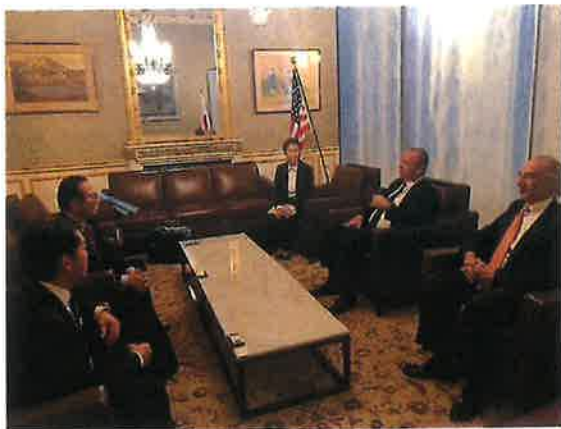


●スコット・ギルマン氏面談

- 1 日 時 令和4年10月12日(水) 17:00～17:45
- 2 場 所 在ニューヨーク日本国総領事公邸
- 3 出席者 〈相手方〉
スコット・ギルマン JapanQuest Journeys 業務執行取締役
〈同席者〉
フィリップ・ローゼンフェルド 日本ユダヤ教団会長
(JapanQuest Journeys 共同創始者)

4 内 容

- ・米国高所得者層による訪日旅行の際に当市を含むツアー造成を依頼。
- ・敦賀訪問に向けて、旅行社視点にて、充実したプログラムとするための提案をいただいた。
- ・日本は見に行くところは多いが、泊まるところが少ない。また、宿泊施設として、大きいところでなく、小さくてもサービスのいいところ、ブティックホテル(客室数が10～100室程度と比較的、規模が小さいながらも、独創性が溢れる独特なデザインやサービス等を売りにしているテーマ性のあるホテル)を求める客も多い。
- ・これからの旅は観るだけでなく価値を体験できることが重要であり、それができれば金額は気にならなくなる、街のストーリーを誰かと話しながら回ることができるとよいだろうといった意見をいただいた。
- ・敦賀市の観光の現状などを説明し、敦賀を中心に県内の各観光地などを組み合わせていくことの重要性を確認。
- ・ユダヤ関係の顧客が多いことから、今後のツアー造成時に敦賀を訪問先に加えていただくことについて前向きな回答をいただいた。



●在ニューヨーク日本国総領事・大使面談

- 1 日 時 令和4年10月12日(水) 17:50～18:00
- 2 場 所 在ニューヨーク日本国総領事公邸
- 3 出席者 〈相手方〉
森 美樹夫 在ニューヨーク日本国総領事・大使
〈同席者〉
桜庭 大輔 在ニューヨーク日本国総領事館 領事

4 内 容

- ・今回の米国訪問に際しての各種協力や、歓迎レセプションの開催について謝意を伝えた。
- ・今後の米国、特にニューヨーク在住者等との交流について、引き続きご助力をいただけるよう依頼。

●森 在ニューヨーク総領事・大使主催敦賀市長歓迎レセプション

1 日 時 令和4年10月12日（水）18：00～21：00

2 場 所 在ニューヨーク日本国総領事公邸

3 出席者 杉原サバイバー及び関係者、ユダヤ系市議、ユダヤ系団体、
関係国外交官、旅行・観光関係者、現地メディア等 計約65名

4 内 容

- ・森大使（総領事）、市長、イエーガーNY市議、杉原サバイバー親族、在NYイスラエル総領事等によるあいさつに続き、市長による人道の港 敦賀のプレゼンテーションを実施。その後、杉原サバイバー マーシャ・レオン氏のご息女によるピアノ演奏や、レオン氏の遺品である扇子の敦賀市への寄贈セレモニーを実施した。
- ・敦賀市議会議長による乾杯の後、約1時間半にわたる歓談が行われ、出席者と親交を深めた。
- ・リニューアルしたムゼウムを始め、敦賀市に関するPRを実施、既存の関係強化と共に新たなネットワーク構築を図った。

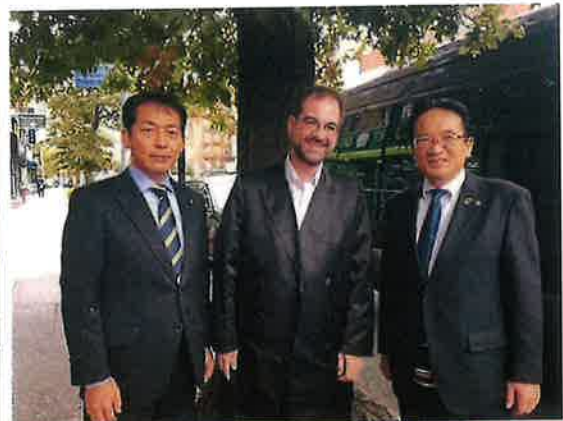


●ブルックリン 44 区視察

- 1 日 時 令和 4 年 1 0 月 1 3 日 (木) 1 0 : 3 0 ~ 1 3 : 3 0
- 2 場 所 1517 48street, Brooklyn 外
- 3 出席者 〈相手方〉
カルマン・イエーガー ニューヨーク市議会議員
ラビ・ジョエル・ローゼンフェルド
※ ラビ…ユダヤ教における宗教的指導者
〈同席者〉
了泉庵 達士 在ニューヨーク日本国総領事館 政務部長
桜庭 大輔 同 領事

4 内 容

- ・ラビの案内により、ユダヤ関連施設及びユダヤ祝日行事の視察を行い、超正統派ユダヤの習慣や文化などについての理解を深めた。
- ・来敦経験のあるカルマン・イエーガーNY市議を介して、現地ユダヤコミュニティとの交流を実施。その際、イエーガー市議より、自ら人道の港敦賀のストーリーを紹介していただくなど、積極的に敦賀のPRを実施することができた。
- ・イエーガー市議より、2018年に本市を訪問した際の、当市の受け入れについて改めて謝意が表明された。
- ・ユダヤ教の教義に則した食事のルール（コーシャ）に完全に合致した食事を提供するには、ラビによるレストランの確認・認証が必要となる。ここ数年ユダヤの方々による訪日旅行は増えているが、コーシャレストランの運営は経営面で課題がありうる等の情報提供をいただいた。
- ・新しくなったムゼウムへは、コロナ禍により訪問出来ていないため、来日した際は、是非訪問するとのことであった。



●杉原サバイバーご令嬢面談

- 1 日 時 令和4年10月13日（木） 14:50～15:45
- 2 場 所 カレン・レオン氏 ご自宅
- 3 出席者 カレン・レオン氏（杉原サバイバー マーシャ・レオン氏ご息女）
ローラ・レオン氏（同）
ニナ・レオン氏（同）

4 内 容

- ・12日に開催されたレセプションでの、ピアノ演奏及び扇子寄贈に関して謝意を伝えた。また、ニナ・レオン氏が作曲した楽曲については、ムゼウムで開催しているピアノコンサートの際に演奏していることを報告した。
- ・杉原サバイバーであり、3人の母であるマーシャ・レオン氏が敦賀上陸、神戸での生活を経て米国へ持って行った品々等、同氏に関する多数の資料を見せていただいた。
- ・また、これらの資料を活用して将来的にムゼウムでの企画展を開催することについて提案したところ、同意をいただくことができた。



- ※ 当初計画していたウェストチェスター郡庁政府訪問については、先方の都合により急遽取りやめとなりました。

● モントリオール・ホロコースト博物館視察

- 1 日 時 令和4年10月14日（金） 13：20～14：50
- 2 場 所 モントリオール・ホロコースト博物館
- 3 出席者 〈相手方〉
 ジャック・サーダ 館長
 オードリー・リ Copp 副館長
 フィシェル・ゴルディグ氏（ホロコーストのサバイバー）
 〈同席者〉
 垂井 俊治 在モントリオール日本国総領事館 首席領事 外

4 内 容

- ・館内全体の視察に加え、杉原千畝氏や杉原サバイバーに関する展示を重点的に案内いただき、今後館同士の連携を進めていくことを確認した。
- ・2025年にリニューアル予定とのこと。
- ・ホロコーストのサバイバーであるゴルディグ氏にも同席いただき、当時のヨーロッパでのユダヤ人迫害の記憶などを伺った。
- ・1939年生まれで9歳のころにゲットー（ユダヤ人が住むことを許された近隣地域）での生活が始まったとのこと、そこでの生活の様子や、ヨーロッパの多くの都市で厳しい規制や制限のもとに置かれていたことなど、悲惨な生活の様子を語っていただいた。
- ・また、ユダヤ人を助けてくれていた敦賀市に感謝の意が示された。
- ・ゴルディグ氏は、大学生のグループや観光客に講義をして、この歴史が忘れられないように語り部として活動を続けているとのことであった。



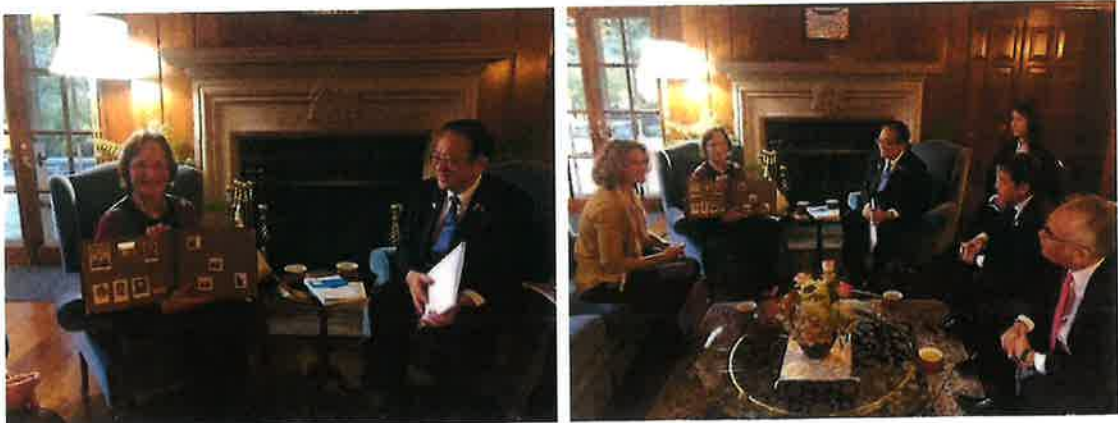
●在カナダ日本国大使館訪問

- 1 日 時 令和4年10月14日（金） 17:00～17:20
- 2 場 所 在カナダ日本国大使館
- 3 相手方 古谷 徳郎 在カナダ日本国大使館 次席公使 外
- 4 内 容
 - ・今回のカナダ訪問に際しての各種協力や、夕食会の開催について謝意を伝えた。
 - ・今後のカナダとの交流について、引き続きご助力をいただけるよう依頼。



●杉原サバイバーご令嬢面談

- 1 日 時 令和4年10月14日（金） 18:00～18:30
- 2 場 所 在カナダ日本国大使公邸
- 3 出席者 〈相手方〉
ジュディス・クラウレイ氏（杉原サバイバーソニア・リード氏姪）
コリーナ・クラウレイ氏（ジュディス氏ご息女）
〈同席者〉
山野内 勘二 在カナダ日本国大使
中村 泰徳 在カナダ大使館 広報・文化部門次席
- 4 内 容
 - ・ジュディス・クラウレイ氏より、杉原サバイバーである自分の家族の話や「大迫アルバム」に写真が残る叔母のソニア・リード氏の話をお伺いした。
 - ・敦賀市より、「大迫アルバム」のレプリカを贈呈し、ソニア・リード氏の写真やその裏のメッセージなどについてご覧いただいた。



●当地紙（ヒルタイムズ紙）インタビュー

- 1 日 時 令和4年10月14日（金） 18：30～19：00
- 2 場 所 在カナダ日本国大使公邸
- 3 出席者 〈相手方〉
ニール・モス ヒルタイムズ紙記者
サム・ガルシア ヒルタイムズ紙カメラマン
〈同席者〉
ジュディス・クラウレイ氏（杉原サバイバーソニア・リード氏姪）
コリーナ・クラウレイ氏（ジュディス氏ご息女）
山野内 勘二 在カナダ日本国大使

4 内 容

- ・人道の港 敦賀の歴史や、現在の取り組みについて敦賀市から説明するとともに、ジュディス・クラウレイ氏よりご自身の家族の歴史について説明。
- ・敦賀市、クラウレイ氏、山野内大使宛の、「なぜこのような歴史を守ることが必要と考えるか」という質問に対応した。
- ・その中で、クラウレイ氏より歴史を繋ぐために、次の世代に形として見せることが大事であり、今回は娘にそれを見せることができたと言っていた。

●山野内在カナダ大使主催夕食会

- 1 日 時 令和4年10月14日（金） 19：30～21：30
- 2 場 所 在カナダ日本国大使公邸
- 3 出席者 山野内 勘二 在カナダ日本国大使
ジュディス・クラウレイ氏（杉原サバイバーソニア・リード氏姪）
コリーナ・クラウレイ氏（ジュディス氏ご息女）
ローネン・ホフマン 在カナダイスラエル大使
ミシェル・アラド 在カナダイスラエル大使パートナー

4 内 容

- ・出席者に向けて、人道の港 敦賀の歴史や取り組みを紹介した。
- ・カナダの国の情報、国勢やカナダにおけるユダヤ人やサバイバーについて等の情報提供をいただいた。
- ・在カナダイスラエル大使へ向けて、10月以降ムゼウムにイスラエルから団体客の予約が複数あることを報告し、イスラエルからの誘客促進等の観光面に関する意見交換を行った。
- ・その中で、どのように今後の交流を続けていくかという話題には、例えばスポーツなど、分野を特定して行うのも方法であるなどの意見があった。



●国立ホロコースト記念碑視察

- 1 日時 令和4年10月15日(土) 9:15～10:15
- 2 場所 オタワ 国立ホロコースト記念碑
- 3 同席者 山野内 勘二 在カナダ日本国大使
山崎 明子 在カナダ日本国大使館 一等書記官
アルトゥール・ウィルツィンスキー
ホロコースト教育・奨学金センター理事
- 4 内容
 - ・アルトゥール・ウィルツィンスキー氏より、ホロコースト記念碑の設計の意図や施設、展示の内容などについて、詳細な説明を受けた。



●初代駐日ポーランド共和国大使ご令嬢面談

- 1 日時 令和4年10月15日(土) 15:05～16:10
- 2 場所 ご自宅
- 3 出席者 テレサ・ロメル氏(初代駐日ポーランド共和国大使ご息女)
- 4 内容
 - ・2021年2～5月にムゼウムで開催した企画展『「命のビザ」～もう一人の外交官 タデウシュ・ロメル展～』の様子を紹介するとともに、企画展へメッセージを提供いただいたことに対して感謝を伝えた。
 - ・テレサ・ロメル氏より、タデウシュ・ロメル初代駐日大使のお話を伺うとともに、敦賀市やムゼウムの取り組みについての応援をいただいた。
 - ・ロメル大使の活動が取り上げられるのは光栄だが、ユダヤ難民支援以外にも、大使が日々人を助けていたということを知ってもらいたいとお話された。
 - ・敦賀高校創生部による館内ガイドの取り組みなどについて説明したところ、テレサ・ロメル氏は若い方に歴史が受け継がれていることを嬉しく思う旨お話しいただいた。



●在モンリオール日本国総領事面談

1 日 時 令和4年10月15日(土) 16:30~17:15

2 場 所 在モンリオール日本国総領事館

3 出席者 齊藤 純 在モンリオール日本国総領事
垂井 俊治 同 首席領事

4 内 容

- ・モンリオールを含むケベック州に関して、総領事より説明を受けた。
- ・カナダの中でも、ケベック州が「英語の海に浮かぶフランス語の島」と呼ばれるほど文化的に特異であることや、経済などについて幅広く説明をいただき、当地に関して理解を深めた。
- ・今回のカナダ訪問に際しての各種協力について、謝意を伝えた。
- ・敦賀市について文化・経済面を含めた説明を行い、カナダでの人道の港敦賀の発信に向けての協力を依頼した。



※ 市長・議長一行の10月16日(日)以降は、敦賀市文化振興課より報告します。

※ 人道の港発信室職員及び通訳について、16日(日)及び17日(月)は帰国に係る移動日のため特記事項はありません。



Japan Consulate NY 総領事館  @JapanCons_NY · 12時間

...

● In celebration of Japanese-Jewish friendship 

AMB Mori & Mayor Takanobu Fuchikami of #Tsuruga, a Japanese port city where Jewish people found refuge in WWII, spoke with #KalmanYeger, @AmbAsafZamir & the Leon family on strengthening ties between the #Jewish & #Japanese people.



 2

 6



← ツイート



Japan Embassy Canada ✓

@JapaninCanada

🇯🇵 Japan government organization

The mayor of Tsuruga City Takanobu Fuchikami recently visited Ottawa to share the legacy of Japanese diplomat Chiune Sugihara. Tsuruga received many Jewish refugees during World War II.



Japanese mayor honours Holocaust saviour's Canadian connections:



hilltimes.com

Japanese mayor honours Holocaust saviour's Canadian con...

Japanese diplomat Chiune Sugihara saved thousands of Jewish lives during the Holocaust by granting visas in spite ...

午前1:00 · 2022年10月21日 · Hootsuite Inc.

1 件のリツイート 3 件のいいね



← ツイート



Artur Wilczynski

@Arturmaks



Honoured to be with their Excellencies Takanobu Fuchikami, Mayor of #Tsuruga, Masato Fukutani, Chair of the City Assembly and Ambassador Yamanouchi at the National Holocaust Monument in Ottawa. Pleased to explain the history of the monument & some of Canada's Holocaust history.

[ツイートを翻訳](#)



Canada in Japanさんと他6人

午後11:45 · 2022年10月15日 · Twitter for iPhone

3件のリツイート 19件のいいね



Artur Wilczynski

4日 · 公開



Was honoured to guide a delegation from Japan, led by the Mayor of Tsuruga City and Japan's Ambassador to Canada, to the National Holocaust Monument.

Located on Japan's west coast, it is the location where thousands of Jewish refugees fleeing Nazism found refuge. Chiune Sugihara, a Japanese diplomat and recognized by Yad Vashem as Righteous Among the Nations, helped thousands of Jews obtain Japanese travel documents that let them travel from Lithuania to Vladivostok and then across to Tsuruga. Today there is a museum commemorating this history.

翻訳を見る



👍❤️👏 38

コメント1件 シェア4件

👍 いいね!

💬 コメントする

🔗 シェア

新聞と同じレイアウトで読めるデジタル版 www.nyseikatsu.com 世界のニュースについてもNYの今が分かる日本語新聞(フリー) © All copyrights reserved to New York Seikatsu Press, Inc.

朝日の影長く 太陽が冬支度

10月末のハロウィンを過ぎたあたりから ニューヨークは足早にホリデーシーズンへと向かう 行き交う人々の足取りもどこかせわしなくなる 朝晩の郊外は、すでにマンハッタンより 5度ほど気温が低い グランドセントラル駅に朝暮くと 朝日の影が長く尾を引いていた 太陽は、足早く冬支度に入つた模様 (10月17日午前9時 写真・三浦良一)



来週号はお休みします 10月は発行日の土曜が5回あるため、第5週目の29日号は11月5日号と合併号になります。本紙は月4回の発行です。 ニューヨーク生活プレス社



© 2020 Musical Impresses Inc.

命のビザで日米交流 渚上敦賀市長が来米

渚上敦賀市長が、世界最大のユダヤ・コミュニティが存在するニューヨークを訪れ、同コミュニティとの関係を強化する目的で12日、ニューヨーク市を総領事公邸で同市にある「人道の港 救護人セウム」の紹介と感謝の挨拶を行った。 初回に於いて、シベリア鉄道を経由して日本とヨーロッパを結ぶ国際線として発展した。1920年代にはロシア革命の動乱によつてシベリアで家族をつたわす一ランド孤児、1940年代には杉原千蔵氏が発給した「命のビザ」で救われたユダヤ難民たちが上陸した歴史がある。当時の建物を復元した資料館「人道の港 救護人セウム」では、孤児と難民が上陸した歴史、彼らに手を差し伸べた人々、そして救護の人たちが迎えた入った様子を後世に伝えていく。 同日はニューヨーク、日本総領事館主催により、日本とユダヤ・コミュニティとの交流を促進するため、当地における各種ユダヤ団体、代表者、ホロコースト・サバイバーを集めた「セプティン」が開催された。当日は、親や親族がナチスからの迫害を逃れて日本を經由してアメリカに渡ったユダヤ系市民の子孫や関係者60人余りが招待された。 渚上市長は当時敦賀に上陸した人々に子供たちがらんどを手渡して苦労を労ったこと、難民が胸時計を質屋に入れたお金を借りたが、質屋は持ち主が取りにくく、かもしれないと思いつつ、自分の娘が欲しかった一つの時計。 計外は質屋に出さなかつた話、唯一残つた娘の胸時計が展示されていることを紹介。水際対策が大幅に緩和された日本へどうぞみなさん敦賀へお越しください。と感謝の挨拶をした。 渚上市長は、ニューヨーク総領事の森美樹夫大使、渚上市長、イェガー・ニューヨーク市議、在ニューヨークイスラエル総領事による挨拶のロール・プレイングによる娘・ローレンさんによる「ありがとう」の言葉が披露された。渚上市長が被る市議会議員の発声で乾杯、シベリア料理、酒、和食などがbuffet形式で振舞われ、和やかに懇談した。(関連記事4・5面に)



ユダヤ系市民の招待客たちを入口で歓迎する左から 森大使、渚上市長、福谷市議会議長(12日 NY 総領事公邸で)

Global Logistics Provider NIPPON EXPRESS NEX-SKY BASIC お財布にやさしい航空貨物サービス 1-718-632-2600 Web: www.nipponexpressusa.com

HINOMARU LIMO & TAXI SERVICE 日の丸 リムジンサービス www.hinomaru-limo.com 空港送迎・観光・企業訪問 コーポレートアカウント お問い合わせ email: hinomaru@rcn.com ドライバー募集 上記Eメールアドレスにご連絡ください。

アッパーウエストの 日系食料品店 多量のお届けは 白飯に大根 味噌煮なデイクアウト メニューからは カレーうどんや どこから食べても具材の 出てくるおにぎりは いかがでしょうか? しんばし72 218 West 72nd St. New York, NY 10023 Tel: 212-510-7799 営業時間 11:30-21:15 月曜定休

加藤弁護士の ビザ最前線



アサイラム(亡命)による移民ビザ申請

「TPS」暫定的な保護
ステータス申請の許可
4月以降は「アサイラム」申請をすることが可能になりました。アサイラム(永住)という恐怖がある。米国人権救済の目的で、このアサイラム申請

アサイラムは、亡命と一般的に言われています。アサイラム申請をするには、次の3つの条件を満たしていなければなりません。

- ①日本で著名な芸能人の方(さん)が違法薬物所持と使用していることと推測され、初犯という点で猶予判決は下されず、アサイラム申請を拒否されたことにより、米国に滞在することは困難になりました。
- ②Kさんは、性的少数者(T.G.B.)活動の条件として、上記の3つの条件のうち、政治的な意見および人権救済の目的で、アサイラム申請を拒否されたことにより、米国に滞在することは困難になりました。
- ③Kさんは、性的少数者(T.G.B.)活動の条件として、上記の3つの条件のうち、政治的な意見および人権救済の目的で、アサイラム申請を拒否されたことにより、米国に滞在することは困難になりました。

命のビザに感謝

生存者の娘が演奏 NYで3姉妹育てた母



第二次世界大戦中にヨロップから逃げるために陸路シベリア鉄道を使ってNYにきた母親の故マシーンさん



Photo June 17, 1941@Karen Leon MashaLeonFamilyArchive

第二次世界大戦中にヨロップから逃げるために陸路シベリア鉄道を使ってNYにきた母親の故マシーンさん

「命のビザ」を育てた母は、1941年2月に米国に到着しました。当時10歳だった少女マシーンさんは、その後、米国で育ちました。

「命のビザ」を育てた母は、1941年2月に米国に到着しました。当時10歳だった少女マシーンさんは、その後、米国で育ちました。

「命のビザ」を育てた母は、1941年2月に米国に到着しました。当時10歳だった少女マシーンさんは、その後、米国で育ちました。

マシーンさんの思い出を曲に込める

「命のビザ」を育てた母は、1941年2月に米国に到着しました。当時10歳だった少女マシーンさんは、その後、米国で育ちました。



左からステイブン・コーエンさん(ローラさんの息子)、ローラさん、カレンさん、湖上敦賀市長、森N.Y.結婚事・大使、西川入道の池野専登長

「命のビザ」を育てた母は、1941年2月に米国に到着しました。当時10歳だった少女マシーンさんは、その後、米国で育ちました。

「命のビザ」を育てた母は、1941年2月に米国に到着しました。当時10歳だった少女マシーンさんは、その後、米国で育ちました。

「命のビザ」を育てた母は、1941年2月に米国に到着しました。当時10歳だった少女マシーンさんは、その後、米国で育ちました。



住所: 〒914-0072 福井県敦賀市金ヶ崎町 23-1
電話: +81-770-37-1035
定休日: 水曜、年末年始
料金: 大人 500円、小学生以下 300円
公式サイト: tsuruga-museum.jp
(日本語・英語・ポーランド語)

上陸の地福井県敦賀市 人道の港敦賀ムゼウム

カストロ岡牧子の 自閉症からの脱皮

自閉症と発達障害からの 脱皮を支援する自然治癒療法

腸内細菌を改善し脳の機能を高めるGAPS食事療法と、フェルデンクライス・メソッド(感覚機能と運動機能の統合を促進するハンズ・オン・セラピー)を合わせることで、免疫能力の機能性を高め、自閉症からの脱皮を促します。

ゴールは、自力で生きていけるようになること!

ご相談は、info@NaturalHealingArtists.comへ。
ホームページ: NaturalHealingArtists.com 電話番号: 212-753-7806

MAX JOB

キャリアアップ 新しいワークスタイル!

ニューヨーク・ニュージャージー州での
求人求職はMAXで。

www.maxjob.com

登録方法を大幅に簡素化しました。
皆様のご登録をお待ち申し上げます。

MAX JOB

キャリアアップ 新しいワークスタイル!

ニューヨーク・ニュージャージー州での
求人求職はMAXで。

www.maxjob.com

登録方法を大幅に簡素化しました。
皆様のご登録をお待ち申し上げます。



ジャズマンの父親の物語 ウラジオストクから日本

レセプションが盛大に続いている時に記者総領事公使を出た。後から総領事館の職員が追いかけてきて青いトートバッグを教員からの土産だと言って渡してくれた。地下鉄に乗ってオフィスに戻る車内で、目の前で同じ青いトートバッグを持っている若いカップルに気づいた。それはセブシオンにいたのです。二眼目で降りなくてはならぬ。詳しい話ではないが、自分が記者であることを伝えて名刺を渡して連絡してくれるよう頼んで別れた。話したのは五分くらいだった。翌日、メールがきた。

おはようございます。

こちらはドブ・マンスキです。妻のエリン・パシエと昨夜、電車であなただけに会いました。お会いできて

私の祖父(父の父)は1937年にポーランドのリダからアメリカに渡り、彼の妻(父の母)



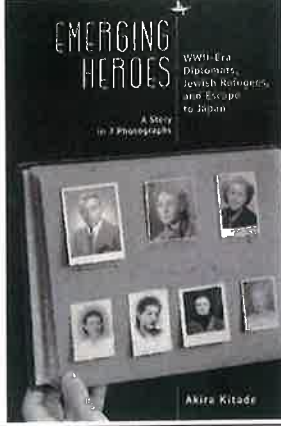
外交官に救出されたユダヤ人



北出明さん

北出明さんの続・命のビザ 英語版を会場で配布

「命のビザ」に関連したテーマで2010年から調査・執筆・講演活動を行ってきた北出明さんが、2012年に出版した前著「命のビザ」の続編である「続・命のビザ」の英語版を会場に配布した。北出さんは、1939年にポーランドから逃れたユダヤ人救出の外交官たち(「命のビザ」)の英語版(「キヤッツ邦子」訳)が当日の招待客に配布された。



は、1939年にポーランドから逃れたユダヤ人救出の外交官たち(「命のビザ」)の英語版(「キヤッツ邦子」訳)が当日の招待客に配布された。

母と三おばさん。叔父のサムは19歳くらいで、彼を助けた。父は、まだ若かったので、カウナスまで行くことができた。三おばさん、サムにミラと父に一枚、サムに一枚の計三枚の通過ビザを取った。18歳未満の場合は、親のビザ。そのおかげで、彼らはモスクワに行き、そのままソビエト連邦に留まることになった。日ソ中立協定が結ばれたので、日本は1941年1月に船で日本に到着し、5月に船でシベリアへ向かった。彼らは他のユダヤ人難民と一緒に神戶にいた。父の祖母は高齢でこの旅には出られず、他の親戚と一緒にトリアに残された。トリアに全員が乗った。トリアにアメリカのビザを持っていった。私の家族のように、アメリカのビザを持っていった。父の叔父、叔母、従兄弟は、昨夜お話しした上海のゲットーに送られた。

銃の所有禁止ゾーン 一時的に再び有効に

連邦控訴裁判所は12日、法廷闘争となつてきたN.Y.州の隠蔽携持改悪法を一時的に有効とする判決を下した。

銃所持の規制強化を願う同法は今年9月1日に施行された。しかし、N.Y.州の連邦地方裁判所は今年7月、米銃所有者協会(N.Y.州)の訴えを受理し、「市民の権利を制限する憲法違反」という主張を差止めを命じた。

テニール氏は「キヤッツ邦子」の著者である。N.Y.州知事率いる民主派は、最高裁判所の判決に違反する法律を制定した。N.Y.州の銃所持の権利のために再び立ち向かうことを光栄に感じている。米国の銃規制は憲法に阻まれている。

河合塾 帰国生大学入試説明会 2022

河合塾海外帰国生コースでは、海外で学び日本の大学をめざす受験生をバックアップするため、帰国生大学入試の説明会を実施します。北米におきましては、今年度は右記の日程でオンラインで実施します。大学入試の最新情報および合格の秘訣をお伝えいたしますので、是非この機会をご活用ください。テーマおよび内容は下記の通りです。(内容は都合により変更になる場合があります。秋入学や英語プログラムの大学の情報は提供しません。)

実施日時	
10月の実施日	10月9日(日) 終了・23日(日)
11月の実施日	11月6日(日)・20日(日)
実施時間	
米国東部時間	午後1時~3時
米国中部時間	正午~午後2時
米国太平洋時間	午前10時~正午

帰国生大学入試の概況と今後の受験対策

- ①帰国生入試の基礎知識と海外在住中の心構え
- ②主な大学の最新入試情報と攻略法
- ③河合塾海外帰国生コースのカリキュラムの特長

★参加者アンケート回答者に説明会資料と情報誌「栄冠めざして帰国生入試」を進呈!

参加方法

- ・オンラインにて実施しますので、必ず事前にお申込みください。
- ・お申し込みは、下記の河合塾海外帰国生コースのウェブサイトに掲載の参加申し込みフォームをご利用ください。*E-mailでは申し込みません。
<https://www.kawai-juku.ac.jp/kikoku/ct/north-america/>
- ・定員は各日程100家庭ですので、お早めにお申し込みください。
- ・在住国・地域に関係なく、どの日程にもご参加いただけますが、より多くの方に参加いただけるよう、1家庭1日程のみとさせていただきます。
- ・参加に必要なIDとパスワード等の情報は、実施日の2~3日前にお知らせします。

お問い合わせ先 **河合塾**

河合塾海外帰国生コース北米事務所
E-mail : kikoku@ujeec.org
<http://www.kawai-juku.ac.jp/kikoku/>



Neil Moss

Diplomatic Circles

Japanese mayor honours Holocaust saviour's Canadian connections



Tsuruga, Japan, Mayor Takanobu Fuchikami was in Ottawa sharing the story of his port city's contribution to the rescue of thousands of Jewish people during the Holocaust. *The Hill Times* photograph by Sam Garcia



Wartime diplomat Chiune Sugihara is the lone Japanese person to be granted Israel's Righteous Among the Nations honour. *Photograph courtesy of Wikimedia Commons*

Japanese diplomat Chiune Sugihara saved thousands of Jewish lives during the Holocaust by granting visas in spite of his superiors' wishes.

The mayor of a Japanese port city was in Ottawa last week to mark the work of a war-time diplomat who saved thousands of Jewish refugees during the Holocaust and to meet Canadian relatives of those who were saved.

In 1940, Japanese diplomat Chiune Sugihara was posted to Kaunas, Lithuania, to observe German and Soviet troop movements and to determine when Nazi Germany would attack the Soviet Union. But while in Eastern Europe, he also issued visas for thousands of fleeing Jewish refugees against his superiors' wishes. Those visas have become known as "visas for life."

Those who were granted visas travelled on the Trans-Siberian Railway to Vladivostok, Russia, before boarding a ship to the Japanese port city of Tsuruga. From Japan, many travelled to countries throughout the world, including Canada and the United States. It is estimated that there are around 100,000 descendants of those who received visas issued by Sugihara.

Takanobu Fuchikami, the current Mayor of Tsuruga, was in Canada to share Sugihara's legacy and to connect with relatives of those who survived the Holocaust with help from the Japanese diplomat's visas.

"There are so many heartwarming episodes from this time, once the refugees arrived in Tsuruga, of the people of Tsuruga offering fruits like apples and opening up

the public bathhouse for them," Fuchikami said through a translator at the Japanese ambassador's residence on Oct. 14.

In 2008, the Port of Humanity Tsuruga Museum opened in honour of Sugihara and the Jewish refugees who were saved from the Holocaust.

"The one thing that we care to share is the fact that, certainly, perhaps there were atrocities caused by the Japanese military [and] army abroad, especially around Asia, but there were also people in Japan who were very kind, who accepted others into their land," Fuchikami said.

"From the perspective of Tsuruga residents, there wasn't anything special that they had done—it was quite ordinary or natural that one would help those in need of help. Therefore, there wasn't any want or desire to really show off, *per se*, and

therefore there wasn't an establishment of something like a museum until recently," he said.

Fuchikami and Tsuruga city assembly chair Masato Fukutani visited the National Holocaust Memorial while in Ottawa. The delegation also visited the Montreal Holocaust Museum.

Sugihara is the only Japanese person to be given the Righteous Among the Nations honour from Israel, given to non-Jews who risked their lives to save Jewish people during the Holocaust.

In spite of the instructions he was receiving from the Japanese Ministry of Foreign Affairs, he issued transfer visas to all Jews who came to his consulate—most of those seeking transit visas had neither an entrance visa to a final destination nor the funds required for a transfer visa to be

issued. In a cable from Tokyo, Sugihara's superiors reacted to the visas by remarking that several of the approved visas left them "confused and we do not know what to do." They reiterated that transit visas can only be given if refugees have entry visas for a final destination and the necessary funds, but Sugihara continued to issue transfer visas. For his work, one Holocaust survivor called him the "Japanese Schindler."

The mayor was invited to Canada by Japanese Ambassador Kanji Yamanouchi, who hosted Judith Lerner Crawley and the Tsuruga delegation at his residence. Crawley's parents were recipients of the visas. They had left Łódź, Poland, to travel to Lithuania in 1940, where they received the visas, making their way to Tsuruga before arriving in Vancouver, en route to Toronto. The family later settled in Montreal.

Crawley said she learned of the Sugihara visas in the 1990s during an exhibition in Vancouver.

"When I saw that exhibition and a friend of mine showed me the list of the Sugihara visa recipients, there were my parents' names," she said.

Some have raised concern about the precarious state of Holocaust remembrance with the dwindling number of survivors in each passing year.

"We know that there are forces and people and governments who share values that are more like the Nazi values than ours ... and it's dangerous and [it is] increasingly important that kindness overrules and people look at each other and community like what happened in Tsuruga at the time," said Crawley's daughter Corina Crawley. "One of the interesting things about the story ... is that the Japanese diplomat who actively issued visas was contradicting the dictates from Tokyo at the time."

Yamanouchi said Sugihara's decision to choose humanity over his orders should be remembered.

"During those days, during the wartime, the Japanese government was a military regime and the instruction was everything. But there were some, quite a few diplomats, that rejected the instruction from headquarters, not upon the order from headquarters, but based upon conscience to help the people in need," he said. "It was very courageous—that should be remembered."

nmoss@hilltimes.com
The Hill Times



Tsuruga Mayor Takanobu Fuchikami, right, meets in Ottawa with Judith Lerner Crawley, left, whose parents received visas from Chiune Sugihara. *The Hill Times* photograph by Sam Garcia

Japan mayor calls for closer ties with Jewish communities in U.S.

 KYODO NEWS - Oct 15, 2022 - 14:41 | All, Japan



NEW YORK – A Japanese mayor called for closer ties between the country and Jewish communities in the United States during a recent friendship event, reflecting on his city's history of helping displaced wartime people who fled the Nazis.

"Tsuruga is the town which warmly greeted displaced Jewish people," said Takanobu Fuchikami, mayor of the central city on the Sea of Japan coast, at the gathering on Wednesday in New York.

Tsuruga, Fukui Prefecture, was known as the only city in Japan at which many Jewish refugees arrived by boat from Vladivostok after receiving transit visas in Lithuania from storied Japanese diplomat Chiune Sugihara.



Tsuruga Mayor Takanobu Fuchikami addresses a reception event in New York on Oct. 12, 2022. (Kyodo)

"I hope exchanges with Jewish people will be further enhanced," Fuchikami said at the event organized by the Japanese Consulate General in New York, home to a major Jewish community.

Latest

Among the participants in the event was pianist Laura Leon, whose mother Masha was one of the Jews who escaped from Nazi persecution during World War II thanks to a visa from Japan. World Sports Feature Arts Coronavirus people at the event.

Consul General Mikio Mori encouraged the participants to work together "to enrich and deepen the friendship between the Jewish and the Japanese people."

Sugihara, as acting consul at Kaunas, disregarded Tokyo's authorization process and ramped up the approval of transit visas to Jewish refugees who needed to flee from Europe through Japan.

The number of people saved by Sugihara's decision likely amounts to a few thousand, according to recent research, though previous estimates had long put the figure at around 6,000.

Related coverage:

[Japan, Israel agree to cooperate on defense equipment](#)

[Jerusalem square dedicated to WWII Japan diplomat who saved Jews from Nazis](#)

[Document shows role of another Japan envoy in helping Jews flee Nazis](#)

Oct 15, 2022 | KYODO NEWS



難民へ「毎月
お願い

皆様毎月のご寄
力強く支えます

国連UNHCR協会

マイナンバーの重み説こう 危機に発展する番号制度

上級論説委員 斉藤 徹弥

2022/10/25 10:30 | 日本経済新聞 電子版



マイナンバーのような統一番号制度は徴兵や徴税が必要な戦争などの危機に発展してきた。国家は個人番号で国民を管理しつつ、福祉の充実で国民に生存を保証し忠誠を求める。政府がマイナンバー制度の定着を急ぐのも、こうした文脈で理解すべきだろう。

故国を失う悲しみと迫害を逃れた安堵を感じさせるピアノの旋律が12日、在ニューヨーク総領事公邸での福井県敦賀市長歓迎式で奏でられた。ユダヤ民謡と唱歌さくらさくらに着想を得た「マーシャのありがとう」という曲だ。

マーシャとは第2次大戦中に日本の外交官、杉原千畝に「命のビザ」を発給されたポーランド生まれのユダヤ人女性。母とシベリアを横断して敦賀港に渡り、米国で著述家になった。2017年に亡くなったが、娘たちが感謝を込めこの曲を作曲、演奏した。

敦賀港は「人道の港」を掲げ、ユダヤ難民が降り立った岸壁に苦難の史実を伝える資料館、敦賀ムゼウムがある。複製ながら杉原のサインが残るパスポートをみると歴史的業績の重みを実感する。

米エール大のスナイダー教授は著書「ブラックアース」で虐殺は国家の機能が壊された地域で起こるとした。社会秩序が失われ、一般の人も蛮行に加担してしまうため、ポーランドはその象徴だ。

ナチス支配下でもフランスのように国家機能を保てれば犠牲は少ない。米英のパスポートを持つユダヤ人も多くは安全で、その生存は国家の存在が左右した。国家の管理下にあることを示すパスポートは危機に生存を保証する。

政府はマイナンバーカードをデジタル社会のパスポートと呼ぶが、そこに生存にかかわる重みは感じられない。利便性だけでなく、番号制度の重みを説くべきだろう。

番号制度に詳しい国学院大の羅芝賢准教授は著書「番号を創る権力」で、統一番号の浸透した国では危機を通じ、国民の管理と生存の保証という国家権力の両義性に国民の理解が醸成されたとみる。

例えば民族が分裂した地域はスパイ対策で住民管理を徹底する必要に迫られた。冷戦下の韓国や国共内戦下の台湾だ。ロシアの圧力にさらされるエストニアも同様で、羅氏は「帝国主義の陰に生まれた国民番号制度」と呼ぶ。

番号制度普及のカギを羅氏は導入時期にみる。福祉行政の拡大前に採用した国は行政拡大に伴い統一番号の用途を広げた。戦後日本はこうした危機に直面せず、医療や年金など分野別に独自の番号が発展した。行政は業務増大で前例重視の経路依存性を高め、番号の統一を阻んできた。

日本の経路依存性は伊藤垂人・東大名誉教授が思想的に説いている。著書「日本社会の周縁性」によると日本は中国や韓国と異なり、儒教に基づく論理体系的な世界観が根付かず、土着の民族文化に基づいて非論理的・非体系的に世界を認識してきたという。

そのためグローバル社会で必須の論理体系で説得する指導力は必ずしも評価されず、逆に現実には疎く未熟にみられがちだとする。求められるのは状況に応じた柔軟な判断力と多様な声を調整する資質で大胆な革新より持続的な改善を好む。連続性を重んじるアナログ思考といえ、デジタル化を阻む一因にもなる。

だが安全保障環境の激変はこうした思考に変化を迫る。米国家安全保障戦略はこの10年が中国との競争を決定づけるとした。経済安全保障で深まる米中分断は番号制度を新たな段階に進めつつある。

一端が23年度のマイナンバー法改正だ。検討課題の在留手続きのデジタル化は簡素化に資する一方、在留者情報の正確性を担保し、在留管理を適正にする狙いがある。マイナンバーを

経済安保に使う第一歩になりうるだろう。

マイナンバーはもともと民主党政権が立案し、消費増税を決めた12年の民主、自民、公明3党合意に盛り込んだ。国民の管理と生存の保証という両義性を踏まえた建設的な議論を期待したい。

インバウンド再開で敦賀ムゼウムには早速イスラエルのツアー客が訪れている。国家の両義性を最も考え抜いているとみられる国の人に日本の番号制度はどう映るだろう。



本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.